住友銅吹所跡（すみともどうふきしょあと）

中央区島之内１丁目６番に立つのが右の碑である。この碑は、大阪市が昭和38年(1963)３月に建てたもので、「この地は寛永年間から明治６年まで住友銅吹所のあった所で、江戸時代を通じわが国精錬事業の中心であった」と記されている。

［住友銅吹所跡］

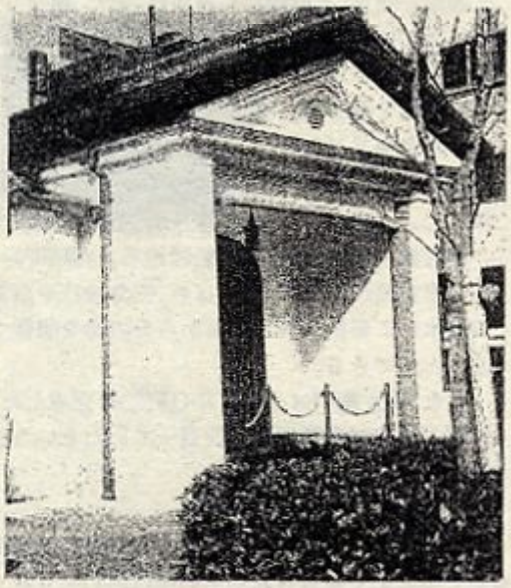
泉屋住友は、はじめ京都で本屋と薬屋を兼営していたが、寛永７年(1630)大坂・淡路町１丁目に移り、銅吹所を設けて銅商を始めた。次いで、貞享元年(1684)鰻谷の吹所に本拠を移した。以後２世紀近く、ここを本拠に、別子銅山(愛媛県)の発見、銅貿易、輸入品販売、両替商など営業を広げ、財閥への道をひた走った。

鰻谷の銅吹所は、各種の炉が並び数棟の銅蔵があって、我が国随一の規模を誇っていたが、江戸時代後半になって、施設は徐々に別子銅山ふもとの立川へ移され、明治12年頃鰻谷から銅吹所の姿が消えた。

［銅吹分け図］

銅吹所の仕事は大変危険な仕事で、橋本宗吉(後述)が全身大火傷の職人の治療をしたなどの記録が多く残っている。

明治８年、本店も富島町(西区)に移され、鰻谷は住友家の居宅だけになった。明治12年に洋館や庭園がつくられ、その東側には、ビリヤード場が建てられた。ビリヤード場　玄関のアーチや円柱の飾りは洋風であり、壁は土蔵造り、屋根は瓦葺きである。洋風と和風がうまく調和しており、文明開化期に用いられた擬洋風と呼ばれ様式である。ビリヤード場は、独立建物のビリヤードとしては、わが国最古のものである。



［元住友家本邸内ビリヤード場］